

子どもたちが日本の文化に触れるきっかけになれば…との保育者の思いから、荒馬に出会ったのが6月下旬。初めて目にした時には「楽しそう!」「何か踊りたくなってきた!」と笛や太鼓・鐘の音色につい踊り出してしまったくじらさん。より楽しんで踊るには、自分たちで使う馬は自分の手で作った方が、くじらさんらしさが表現できるのではないかと考え、約3ヶ月かけて馬づくりに取り組みました。長さ1mの手綱から2mの肩ひも2本、2m50cmの腰ひもそれぞれの三つ編み、馬の体部分となる袴縫い、馬の顔を描く、尾の三つ編み等、手指を使って取り組むものの、編んでも編んでも終わる見通しが持てず、「明日する…」「もうおしまいにする…」と口にしたり、作り上げていく友だちの様子が気になりつつも遊び続けたり…。難しさからなかなか自分から向き合うことができない姿を、仲間はしっかり見ていて「○○ちゃんは力があるねん」「だって三つ編みめっちゃ上手やもん」「くじらさんみんなで馬つけて走りたい」という励ましが支えとなり、向き合うきっかけとなりつつあります。12人一人ひとりが自分で作った馬を身に着けて踊る荒馬。心をひとつにして楽しんで踊ることができれば…と思っています。

くじらチーム10月号